

平成26年3月31日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

陸前高田市議会福幸の会
会長 佐竹 強

政務調査活動概要報告書

政務活動費に関する取り扱い要綱第6条第2項の規定により、平成25年度政務活動報告をいたします。

記

1. 調査事業

(1) 実施日 ①平成26年2月20日(木)～平成26年2月22日(土)

②平成26年3月8日(土)

(2) 場所 ①国立歴史民俗博物館

②全国市議会議長会

国土交通省

明治大学アカデミーコモン

(3) 参加者 ①幹事長 大坂俊

②幹事長 大坂俊(同行者 千田勝治 菅野広紀 佐々木一義)

(4) 行程

①2月20日(木) 陸前高田発7:00～一ノ関発9:10～東京着11:28
～スワンカフェ銀座店～全国市議会議長会～ホテル

2月21日(金) ホテル～国土交通省住宅局～国土交通省住宅局住宅総合整備
課～ホテル

2月22日(土) ホテル～明治大学アカデミーコモン～東京発13:40～一
ノ関着16:14～陸前高田

②3月8日(土) 陸前高田市発～水沢江刺駅発8:54～東京駅11:20着

東京駅11:40発～佐倉着12:20着～国立歴史民俗博物
館～佐倉駅17:44発～東京駅18:29着～東京駅20:

(5) 調査項目

①国立歴史民俗博物館 第363回暦博講演会

平川南館長退官記念レセプションにおいての陸前高田支援に係る意見交換

②全国市議会議長会において「議会改革の現状と今後」について。

国土交通省において「復興住宅政策」「復興住宅関連予算」について。

明治大学アカデミーコモンにおいて「これからの自治体経営、行政評価」について。

(6) 調査概要

①平成26年2月20日(木)；東京着後、スワンカフェ銀座店にて昼食。

スワンカフェは宅急便のクロネコヤマトが障害者の自立支援を助けるために展開しているカフェでホール係には障害者が配置されており受注、配膳等で嬉々として働いており、店長である鈴木敦志氏に伺ったところ、皆さん、健常者と遜色のない働きであり、お客様の中には彼らの働く姿に元気、勇気を貰ったとする方もおり、また、リピーターの方々も多いとのことでした。

私自身も店内での誘導案内に接し、健常者以上の思いやりを感じた次第で、ノーマライゼーションという言葉の要らない社会を目指す陸前高田市として、特に、目指すべきであろうと思われる姿でありました。

次に、全国市議会議長会を訪れ、調査広報部参事であり明治大学政治経済学部講師である廣瀬和彦氏に「議会改革の現状と今後」と題して講義をいただき、意見交換を致しました。議員間討議については三重県議会において実践されている例が紹介され、政策立案等については、議会と議会事務局との協働作業が不可欠であること、特に予算修正などにおいては議会事務局の役割が重要であり、全国の市町村議会においては慢性的人員不足の状態にあると思われるとのことでありました。もちろん、前提として、議員が事務局を十分に使いこなしている事があげられました。また、陳情要望、請願については一般の議員活動、議会報告会などでの公聴活動で得たものを、議会での一般質問、委員会等の場で議論し、予算等への反映、是正していくことが一般的であること、議会情報の市民に対する広報の手法、議会での採決の方法、通年議会、専決処分のあり方等について教授いただき、最後に議会の災害対策について、郡山市の状況などを紹介いただきました。

議会改革については、各地議会の情報を収集しつつ更なる研修活動の必要性を痛感する講義、意見交換でありました。

2月21日；午前中、国土交通省に住宅局担橋本公博大臣官房審議官を訪ね、復興住宅政策について意見交換。午後には里見住宅総合整備課課長、杉田、高橋両課長補佐より復興住宅関連予算について説明を受け意見交換を行いました。橋本参事官には主に震災後約3年を経過した時点での国土交通省の地方自治体に対する対応状況、行政マンパワーの不足に対する支援の可能性についてお伺いしました。また午後の会議においては、復興住宅関連予算の詳細について説明を受け、災害公営住宅関係の支援措置では、公営住宅整備のための補助率の引き上げ、入居者家賃の低廉化に対する支援措置、災害公営住宅に係る用地の取得造成費に対する補助、災害公営住宅に併設する高齢者生活支援施設の整備費に対する補助、災害公営住宅入居の低所得者への特別家賃減額措置に対する支援等についての詳細説明を受け、用地取得造成事業、災害対応改修事業、災害復興型地域優良賃貸住宅整備事業、高齢者生活支援施設整備事業等では、東日本大震災復興交付金の終期まで支援を行うことを目的として、事業を延期することを視野に入れているとの説明を受け、その後、意見交換をおこないました。いずれにせよ、国土交通省においては、それぞれの時期、状況に応じて、色々なメニューを用意しているとのことであり、県を通じて依頼があれば、相応の対応が出来るとのことであり、支援を活かすための調査、製作立案の必要性、そしてその為の研修の必要を感じました。

2月22日、午前、明治大学アカデミーコモンにおいて、これからの自治体経営、行政評価についての自治体経営セミナーに参加、TOC理論（全体最適のマネジメント理論）による行政刷新、変革の可能性を探る講義を受けました。「三方良し、の公共事業改革」の事例も紹介されましたが、多分に概念的であり、理論を理解するには、より多くの時間の必要を感じたが、TOC理論による公共事業改革については多くの可能性を感じました。私事ではあるが、過去において、トヨタ自動車の生産方式であるTTCシステムを勉強、導入することにより、生産性の向上を見た経験があり、理念を理解しシステムを導入することは有効であると思っているので、更なる研修は必要であろうと感じました。

②平成26年3月8日(土)国立歴史民俗博物館において、平川南館長の退官記念講演会「出土文字資料を追う—古代国家の実像を求めて—」を拝聴後、別会場での退官記念祝賀会に出席。席上、紹介を受け、陸前高田の博物館の状況を紹介し、平川南先生の陸前高田市教育委員会の調査事業での業績に対する御礼を申し述べ、更なる今後の協力を要請してまいりました。平川館長は、退官後は人間文化研究所の常任理事に就任するとのことであり、新しい立場での支援を考えたいとのことであり、さらに、国立歴史民俗博物館、青山、久留島教授と陸前高田復興についての意見交換を行い、平川館長退官後も暦博としての変わらぬ支援の言葉を頂きました。

被災地に対する意識の風化が取り沙汰される中、調査活動を通じ、文化財及び文化財行政に携わる方々の意識の高さは驚かされるものがあり、今後とも連携が望まれることと感じました。